



2017年12月1日発行
 (毎月1日発行)
 1984年8月15日第3種郵便物認可
 発行所/(公財)熊本YMCA
 〒860-8739
 熊本市中央区新町1-3-8
 Tel 096-353-6397代



日本バプテスト連盟 羊の群れキリスト教会 牧師
 熊本YMCA常議員/中央運営委員

パク チョル ホ
 朴 哲浩さん

ミッションに導かれ、牧師として日本へ

韓国出身。グローバル企業のサムスンで6年間勤務した朴哲浩さん。「仕事に追われて夢と現実との隔たりを感じ苦しんでいる多くの仲間を見てきました。ある時会社で小さな祈りの会を始めたんです」。4年後、その会は200名ものグループに成長。「この経験の後、企業社会で苦しむ人たちの助けになりたいという気持ちが強くなり、牧師になることを決意。家族の大反対を押し切って会社を辞めました」。クリスチャンが人口の約27%を占める韓国でも、名門企業のポジションを捨てるのは大きな決断でした。

日本に来たのは「偶然という名の必然」。「神学大学生時代に、日本を旅する「ミッション」がありました。その時に訪れた教会の牧師から、熊本の教会を手伝ってほしいと言われたのが、今こうして私が熊本にいるきっかけです」。その後、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団熊本聖書教会の協力宣教師に。それから10年。朴さんは、「私は熊本に遣わされたのです。“帰れ”という御声がなければ帰りません」と穏やかな表情ながらも、きっぱり。

収穫にこだわらず、種をまき続ける

YMCA学院では「知恵を育む」ための授業

流暢な日本語の基礎はYMCA上通センターの日本語クラスで築されました。2010年からYMCA学院のキリスト教学講師に。「学生に宗教を教えているつもりはありません。人間を知り、これから生きるため、難関を乗り越えるための知恵を育んでほしい。授業で、“生命への畏敬”をテーマに人工中絶を扱ったことがありました。授業後、ある学生が私のところにやってきて、感想を述べてくれました。その学生は教会にも足を運んでくれて、とてもうれしかったことを覚えています」。



定期総会で奨励する朴さん

韓国人と一度、コーヒーでも飲んでみて

「日本で暮らす上で苦労することは？」との問いに「人との付き合い方」をあげた朴さん。「韓国人はオープンコミュニケーションで早く、近く相手を知ろうとします。日本人は相手との距離感を丁寧に保ちます。もちろん尊重しますが、私にとっては本当に難しい。日本社会で人間関係を築いて信頼を得るにはどうしたらいいか、今でも学んでいるところです」。

近年の日韓関係と日々の暮らしについて尋ねてみました。「私が熊本に来た10年前と比べると残念ながら、妙な空気が漂っていると感じます。ハングルを学ぶ人も随分減りました」。しかし、それぞれが住む地域で外国人が自らのアイデンティティーをしっかりと守りながら、日本社会に馴染んでいくことこそが大切なのではないかと朴さん。日韓両国のユース(若者)には、メディアからの情報や政治の情勢にかかわらず、一番近い友として相手を知ってほしいと語ります。「ユースに日韓交流の経験の場を提供するのもYMCAの働きです。一人ひとりの顔が見えない“国”ではなく、一人ずつの顔を見て寄り添ってふれ合うこと。韓国人と一度一緒にコーヒーでも飲んでお話してみてください。互いの距離がぐっと近くなるはずですよ」。

クリスマスは隣人に思いを馳せる日に

2015年、「羊の群れキリスト教会」を設立。急いで信徒を増やすのではなく、根をおろす気持ちでゆっくり進みたいと考えています。「韓国にいたら違った伝道の方法があったでしょう。しかし、私は日本にいます。実を結ばせてくださるのは神様です。忍耐強く、収穫の量にこだわらず、種をまき続けていきたい」。

クリスマスの前に、朴さんはクリスマスの過ごし方を教えてくれました。「世界には、満足に毎日の食事ができない子どもがたくさんいます。日本に定着したクリスマスは「サンタクロースの日」になってしまいました。私は隣人を振り返る時間を持つことをお勧めします。そして、私たちクリスチャンは祝福を共に分かち合い、クリスマスの本来の意味を広めていく責任があると思います」。

Pickup

わっしょいわっしょい!
 水前寺幼稚園
 わいわい秋まつり



美味しい食バザーが
 たくさん!
 中央センター前進祭

今年は地域のお祭りと
 同時開催
 東部センター帯山まつり



Information 行こう 見よう 深めよう

12月10日 Sunday

第2回インターナショナル・チャリティーラン

走る
×
チャリティ

YMCAインターナショナル・チャリティーランは障がいのある子どもたちもそうでない子どもたちも共に幸せに生きていける社会をめざし、全国で開催されています。熊本大会は、昨年に続き第2回。今年は食バザーもパワーアップして30店以上が出演予定です。開会式にはくまモンも登場！肥後銀行女子駅伝部も特別招待選手として、大会をサポートします。参加者たちを応援しにきませんか？多くの皆さんの来場をお待ちしています。※競技参加の受付は終了しました。



回 12月10日(日)9:30~14:30 場 熊本県農業公園 カントリーパーク(熊本県合志市栄3802-4) 主催 熊本YMCA 共催 インターナショナル・チャリティーラン実行委員会 後援 熊本県 合志市 熊本市 ほか



2018年1月

楽しみながら社会貢献 YMCAチャリティプログラム

楽しむ
×
チャリティ

今年も、各センターでチャリティプログラムを開催します。益金は、YMCA年末募金に充てられます。

中央センター

回 2018年1月14日(日)10:00~15:00 場 中央YMCA(熊本市中央区新町) 内容 体操教室(トランポリン、さかあがり、かけっこ、なわとび)、体験教室(親子英語、親子ヨガ、紙すき、食品サンプル作成、アロマサシェ等) 問い合わせ TEL 096-353-6391

みなみセンター

回 2018年1月21日(日)10:00~15:30 場 みなみセンター(熊本市南区田迎) 内容 食品サンプル作成体験、紙粘土でアンモナイト作り、体操教室、科学実験教室、フェイスペインティング、ミニバザー等 問い合わせ TEL 096-378-9370



ながみねファミリーセンター

回 2018年1月13日(土)10:00~14:00 内容 食バザー(ポップコーン・クッキーなど)/ヨーヨーつり(1回100円)
回 1月13日(土)10:00~1月19日(金) 内容 くじびき(1回100円)/ガレッジセール
場 ながみねファミリーセンター(熊本市東区長嶺南)
問い合わせ TEL 096-385-0676

むさしセンター

回 2018年1月21日(日)10:00~16:00 場 むさしYMCA(合志市幾久富) 内容 逆上がり教室、バスケット教室、苦手克服レッスン、プール開放、親子サッカー、成人レッスン体験、親子マラソン、のみの市、食バザー 問い合わせ TEL 096-248-6334

※中央、みなみ、ながみねの各コーナーの実施時間・費用はお問い合わせください。

12月31日・1月1日

大自然の中で新年を阿蘇カウントダウンキャンプ

新年
×
キャンプ

毎年恒例。2018年新しい年を楽しく迎えましょう。年越しそばづくり、餅つき、お節料理、お正月遊びを満喫します。

回 12月31日(日)~1月1日(月) 1泊2日
場 YMCA阿蘇キャンプ(阿蘇市車帰358)

対象 ご家族

費用 中学生以上/13,000円 年中~小学生/8,800円 年少以下/3,000円

問い合わせ YMCA阿蘇キャンプ TEL 0967-35-0124



2018年1月16日~21日

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展 in 熊本

建築
×
社会奉仕

建築家であり、また、ヴォーリズ合名会社(のちの近江兄弟社)の創立者の一人としてメンタムを日本に普及させた実業家でもあったウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880年~1964年)。大学時代に学生YMCAに出会い、25歳の時にYMCAの仲介で来日。後に近江八幡YMCAを創設するなど、YMCAとの関わりも深いヴォーリズの建築と、社会奉仕活動を振り返る展示・講演会を開催します。



提供: (公財)近江兄弟社

展示会

回 2018年1月16日(火)~21日(日)9:30~18:30(土日は9:30~17:15) 費用 無料

場 熊本県立美術館分館 展示室3(熊本市中央区千葉城町2-18)

主催 「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展in熊本」実行委員会 共催 熊本YMCA

記念講演会「ヴォーリズの生きた時代と日米の歴史」

回 2018年1月17日(水)19:00~20:30 開場18:30

費用 無料 ※事前申込み不要

講師 姜 尚中さん(熊本県立劇場館長兼理事長/「ウィリアム・メレル・ヴォーリズ展in熊本」実行委員長)

場 熊本県立劇場大会議室(熊本市中央区大江2-7-1)



連続講演会&トークセッション

回 2018年1月20日(土)13:00~16:30 開場12:30 費用 無料 ※事前申込み不要

場 日本福音ルーテル熊本教会(熊本市中央区水道町1-21) ※駐車場はございませんので、公共交通機関もしくは周辺の有料駐車場をご利用ください。

①「ヴォーリズのキャンパス~彼の祈りのかたち」

講師 田淵 結さん(関西学院院長)

②「ヴォーリズさんの設計室」

講師 石田 忠範さん(石田忠範建築研究所代表・元一粒社ヴォーリズ建築事務所所長)

建築見学会(熊本コース/熊本・福岡コース)

回 2018年1月21日(日)9:00受付開始 各コース20名 ※要事前申込

集合場所 九州学院ブラウン・メモリアル・チャペル前(熊本市中央区大江5-2-1) ※駐車場はございませんので、公共交通機関もしくは周辺の有料駐車場をご利用ください。

回 熊本コース/熊本・福岡コース ※見学先・費用等、詳細はWEBで

場 熊本YMCA東部センター 熊本市中央区帯山2-1-11 TEL 096-382-6661

Fax 096-382-7928 E-mail tetsuro.kumamoto@kumamoto-ymca.org



回日時 場会場 内容 参加費 定員 参加条件 持ち物
対象 主催 締切 申込 問合せ その他

R | E | P | O | R | T

[10月29日⇒ 11月1日]

災害支援

熊本の被災者に力を 台南YMCA慈光合唱団がコンサート

10月29日(日)、台南YMCAが支援する身体障がい者のコーラスグループ「慈光合唱団」の団員と台南YMCA職員の合計32名が熊本白川教会を訪れ、合唱を披露しました。

同合唱団は1989年、本格的なコーラスグループとして障がいのある人たちと台南YMCAによって設立。団員の多くが肢体不自由者で、移動や宿泊時のバリアーを克服しながら、台湾はもとより、中国やシンガポールなどでの公演も行ってきました。

台南市は2016年2月にマグニチュード6.6の地震

に見舞われ、大きな被害が出ました。昨年4月の熊本地震後、“歌で熊本の被災者に力を”との声上がり、資金集めと数カ月及ぶ練習によって今回の訪問が実現しました。

団員らは日曜礼拝で教会員らとともに祈りを捧げた後、ピアノの演奏に合わせて8曲の合唱を披露しました。会堂に響き渡った歌声に、コーラスを聴いた一人は「美しく力強い歌声で勇気付けられました。すばらしい合唱を聞くことができ、幸せです」と笑顔で感想を述べていました。



国際

釜山YMCA幼稚園の園児ら来熊 黒川保育園で交流

11月1日(水)、釜山YMCAが運営する幼稚園の園児13名と保護者、理事、職員15名の、計28名がYMCA黒川保育園を訪問しました。

一行は初日、YMCA阿蘇キャンプに宿泊。翌日の朝、黒川保育園に到着すると、園児たちが拍手で出迎え、「くまモン体操」を披露して歓迎ムードを演出しました。釜山YMCAの園児は韓国の民族衣装に身を包み、童謡を元気いっぱいに披露。その後、サッカー、糸電話作りなどで交流すると、最初は緊張していた子どもたちもジェスチャーを交えてコミュニ

ケーションを始めるなど、園内のあちこちで微笑ましい様子が見られました。

釜山YMCAの園児や保護者は、来日前に熊本地震の被害についてのオリエンテーションに参加、「熊本の復興に少しでも役に立てれば」と、保護者全員が復興支援募金のためのリュックサックやワッペンを購入しました。

次の目的地に向かうバスに乗った園児と保護者は、見送る黒川保育園の園児たちにいつまでも手を振って名残を惜しんでいました。



募金

子どもたちの夢のために YMCA年末募金

大津町で美容室を経営しています。昨年からお客さまとのご縁でYMCAの募金に関わり始めました。国内外の様々なことに募金が使われていますが、特に私が期待するのは「貴重な募金を子どもたちの夢のために使ってほしい」ということです。

私は中学生の頃、美容師になることを決めました。幸い、私はこうして夢をかなえることができましたが、なかには様々な事情で夢を諦めざるを得ない子どもがいるはず。志だけではどうにもならないことが、残念ですが、この社会にはあります。

私には小中学生の3人の子どもがいます。子どもたちを取り巻く様々な問題について、自分の子どもを重ね合わせて考えることがよくあります。これからの子どもたちも、かつての私がそうであったように夢は持ち続けてほしい。YMCAには、経済的に困難を抱える家庭の子どもたちがスポーツ教室等に通う際の参加費を減免する制度がありますね。このような制度をこれからも続けて、将来を担う子どもたちの夢を支えてほしいですね。

大津町在住 美容師 西本卓也さん



岡 総主事の トラント Vol.43



苦難と成長の歴史

「主に望みをおく人は新たな力を得／鷲のように翼を張って上る。／走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ」(イザヤ書40章31節)

これは、元熊本YMCA総主事の故廣石鑑光さんが大切にしておられた聖書の箇所です。偶然ですが、昨年の熊本地震で復旧復興活動に奔

走していた時に、同じ言葉を奈良YMCA総主事である三枝隆さんから励ましのメッセージとしていただきました。感謝と共に、神様に守られていることを実感した瞬間でした。

来年2018年10月、熊本YMCAが70周年を迎えることもあり、その歴史を振り返る機会が多くなってきました。特に1960年代には、現在行っている事業の原点ともいえる青少年センターが完成し、プログラムが飛躍的に増加。社会体育実践の場として注目を浴びることになりました。今年50回目の卒業式を迎える全日制の専門学校、さらに大学予備校も開設、幅広い活動を次々に展開していきました。また「働くワイズメン」をテーマに区大会も開催され、熊本・韓国大邱間のYMCA・ワイズメンズクラブの多様な

交流の道を開いた時代でもあります。今年50周年を迎えた熊本朝教会もキリスト教のエキシニカル運動の一環としてYMCAの会館で始まりました。同じく50年前に九州初の少年サッカー協会を開設できたのは元熊本県サッカー協会理事長・名誉副会長の緒方健司さん(2017年召天)による、サッカーをこよなく愛し、情熱と志でサッカー人生を貫いた働きがあったからこそです。

苦難と成長を繰り返し、地域につかえ、青少年と共に歩んできた先人たちの活動。YMCA運動の原点をその足跡に学びながら、時代に向き合っていくために、私たちは「熊本バンドの精神」を受け継ぎ、信仰を内なるエネルギーとして歩んでいきます。

t a l a n t o n

離職者ゼロの仕組みづくり YMCAフィランソロピー協会社会貢献セミナー

10月20日(金)、YMCAフィランソロピー協会の年次総会に併せ開催された社会貢献セミナーの内容を、一部抜粋してご紹介します。

現在、児童養護施設出身者の多くが、非正規雇用以下のワーキングプアの状態にあるという問題をご存知でしょうか？ 彼らは一般家庭の子どもより働くことへの意識が高く、大きなポテンシャルを秘めた子も多いのです。しかし、高校での就職指導は、「就職を決める力」は強いものの、就職先と生徒とのマッチングには余り時間が掛けられていません。就職サイトなど情報があふれている大卒者の就職活動に対し、高校生が入手できる就職情報はハローワークと高校に届く求人票のみ。事前に就職先の詳細がわかっていない場合がほとんどです。加えて、児童養護施設の子もたちは施設を出て立ち立つために「住み込みあり」などの条件面のみを優先して就職しがちです。その後、「就職先が合わない」とすぐに離職。仕事と住み処を同時に失い、すぐに働ける非正規雇用、そしてワーキングプアへと陥る負の連鎖が起こってしまうのです。

私は「子どもたちが“自分で自分に合う仕事を選び、決められる”環境づくりが急務」と感じ、児童養護施設等出身者専門の就職斡旋会社と、NPO法人を立ち上げました。NPO法人では施設の子もたちにキャリア教育やインターンシップなど多くの機会を提供し、子どもたちの自分探しと自己決定力育成を支え、就職後も継続的にフォローしています。株式会社では就職先の斡旋などを行い、「施設出身者」という垣根を取り払うための取り組みも行っています。仕事と本人との適性は想像以上に重要です。適性を知るためにいろいろな仕事にふれる機会を多く設けることも大事です。多くの施設と企業を“顔が見える関係”でつなぐことで、子どもたちの自己決定の幅をより広げていきたいと考えています。



講師／永岡鉄平さん
横浜YMCA常議員。「株式会社フェアスタート」代表取締役、NPO法人「フェアスタートサポート」代表理事／1981年横浜市生まれ。就職支援会社で若者の就職支援を行う中、社会的養護にあった若者のワーキングプア問題にふれ、日本初の児童養護施設等出身者専門の就職斡旋会社・団体を創設する。

第31回熊本YMCA ジュニア体操フェスティバル

11月12日(日)、中央センター体育館で開催。午前の部は188名、午後の部は127名の子どもたちが参加し、日頃の練習の成果を元気に発表しました。



次号は1月・2月合併号として、1月中旬に発行予定です。

わたしと聖句



帯山聖書教会
隈上正敏

ピリピ人への手紙2章6〜7節a

キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。…
(新改訳聖書2017)

突然訪れた、私へのクリスマス

1. 突然勧められた洗礼

「クマガミさん、あなたも洗礼をお受けになりませんか。」福岡から佐賀に向かう列車の中で、突然先生が私に問いかけられた。それは私より1年以上も長く佐賀教会で求道をしていた女子大生が、同じ質問を辞退した後だった。私も同じように辞退したが、一つ条件を付けた。「信仰に確信が持てたら、洗礼を受けます。」その時はクリスマスを一か月ほど後に控えた時期だった。

2. 突然心に訪れたクリスマス

それから1か月後のクリスマスにも、佐賀の教会を訪れた。その時の礼拝で語られたメッセージが、冒頭に掲げた「ピリピ人への手紙2章5〜11節」からだった。その時までの私は、クリスマスチャンの心の中にキリストが働いておられるのは認めていたが、聖書の神様の存在と、イエス・キリストと自分との関係がまだ分かっていなかった。しかし、この時、牧師が語るクリスマス・メッセージを通して、キリストが自分の罪のために十字架にまでかかってくださったことが、心が打ち震えるほどに分かった。それはこの方を天の御国からこの地上に遣わしてくださった、父なる神の存在も同時に受け入れさせた。思いがけないほど突然に、私の心にクリスマスが訪れた。そして数日後、私は洗礼を受けた。

3. そして、今

その時から、すでに50年ほどが過ぎた。私は牧師になり、今年もクリスマスの季節が巡って来ようとしている。そして私の心の中でクリスマスの輝きは、今も増し続けている。

発行所／(公財)熊本YMCA
〒860-8739 熊本市中央区新町1-3-8
TEL 096-353-6397(代)
発行人／岡成也 編集人／富森 靖博
定価60円 購読料は会費に含む

www.kumamoto-ymca.or.jp



熊本YMCAの使命

共に生きる社会 生涯学習の推進 ボランティア活動
地球環境の保全 ウェルネス活動 平和な世界

2017年度基本聖句

ヘブライ人への手紙 13章5節
わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない。